青年招へい事業

韓　国

「交流レポート」

청년 초청 사업

한 국

「교류 보고서」

JICA LIBRARY
J 1125112 (1)

1995

国際協力事業団

JICA
110
36
TAY
LIBRARY

青招
JR
95－020

1125112 [1]

信頼と友情への第一歩
신뢰와 우정에의 첫걸음

平成７年度韓国青年招へい事業
1995년도 대한민국 청년초청사업

国際協力事業団より歓迎のあいさつ
국제협력사업단 환영 인사 말씀

外務省より歓迎のあいさつ
외무성 환영 인사 말씀

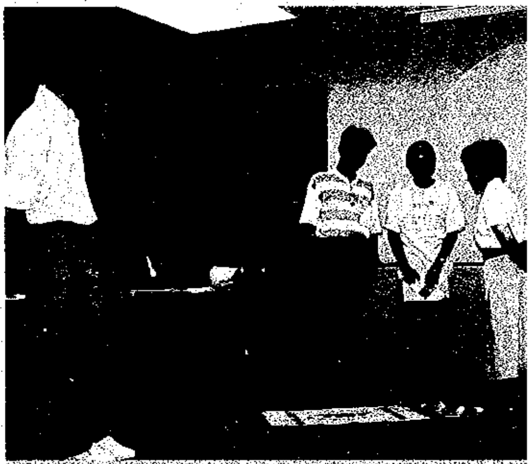
韓国青年代表よりあいさつ
한국청년대표 인사 말씀

韓国大使館より歓迎のあいさつ
주일 한국대사관 환영 인사 말씀

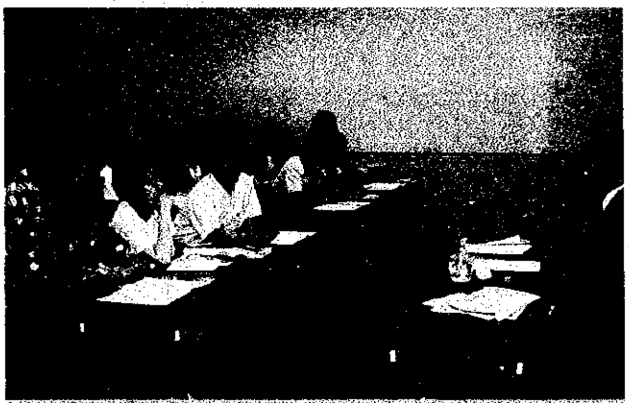
期待に満ちた開講式
기대에 찬 개강식

どんな1カ月になるのかな？(ブリーフィングにて)
어떤 한달이 될까? (브리핑 시간)

真剣にビデオを見る青年
열심히 비디오를 보는 젊은이들



日本語学習
일본어 학습



熱心に講義を聞く青年
열심히 강의를 듣는 청년들

さて、どこに行きましょうか。(体験的日本語学習)
자, 우리 어디로 갈까?

分野…ラム
…그램

養護学校訪問
양호학교방문

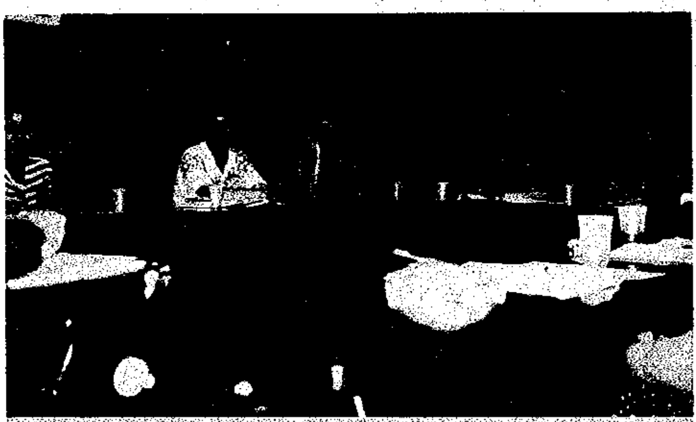
工場見学
공장견학

みんな上手ですね。
다들 잘 하시네요!

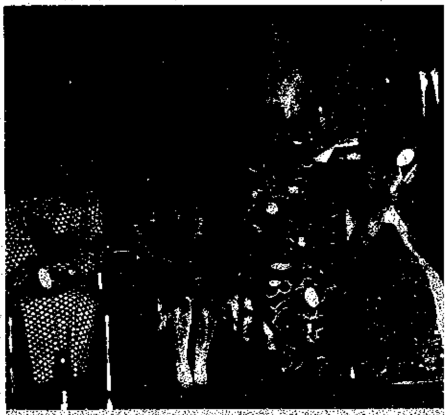
真剣なあまり質問も出ました。
열심히 질문 하는 모습

合宿セミナー
합숙 세미나

よいしょっ！
줄 다리기 대회 얼싸! 얼싸!



意見を交わす青年
서로 의견 교환 하는 청년들



女性たちに質問
여성들에게 질문

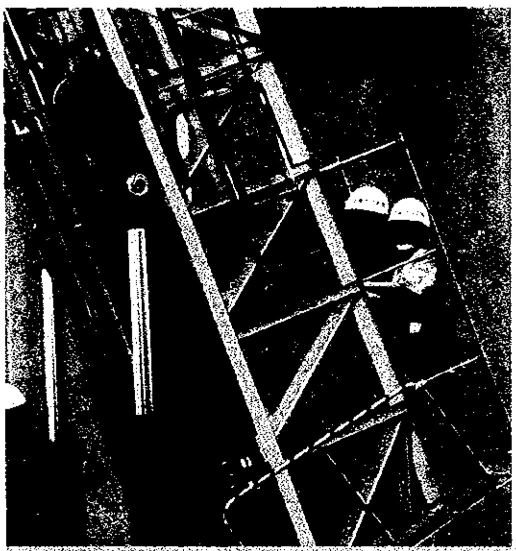
音楽に国境はありません。
음악에 국경이 없습니다.

分[illegible]ラム
분[illegible]

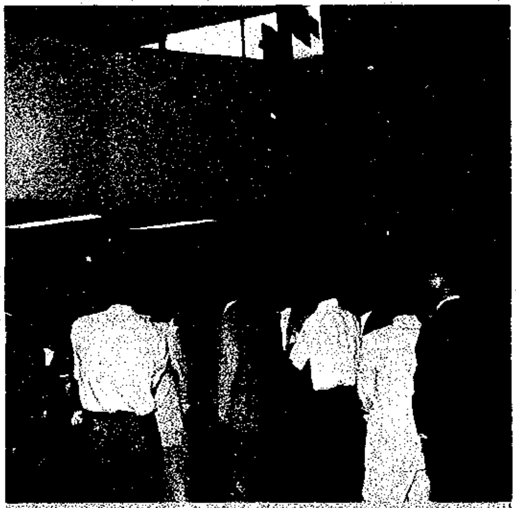
はい、ポーズ（養護学校にて）
김치! 찰깍 (양호학교)

説明を聞く青年
설명을 듣는 청년들

なるほど（工場見学にて）
그래요 정말! (공장견학)



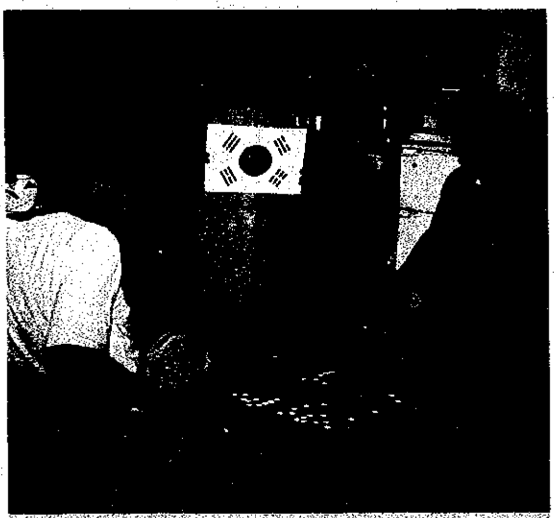
消防車に乗る青年
소방차 사다리를 타는 청년들



施設見学
시설 견학

県庁訪問
현청 방문

ホームステイ
홈스테이

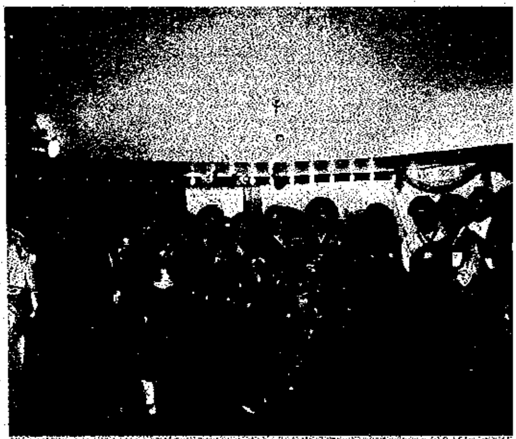


日韓対局、がんばれ！
한－일 바둑전, 이겨라! 이겨라!

おいしいですよ。
이 소면 최고!

はい、とります。
자 찍어요! 김치

青年とホストファミリーとの対面
청년들과 호스트 가족들과의 첫만남



ハイッ、ポーズ
자! 포즈

見学旅行
견학여행

上手にできるかな？（友禅染め体験）
잘 될까？（유젠 염색 체험）

瀬戸大橋をバックに記念写真
세토대교를 배경으로 기념사진

広島平和記念公園にて
히로시마 평화기념공원 한국인 원폭 위령비

宮島にて
미야지마섬

仲良くなった友人との歓談
친해진 친구들과 정다운 이야기

いろいろ勉強になります。
많이 배웠습니다.

元気でね。
잘 있어요! 안녕!

記念にもう一枚
기념사진을 한장 더!

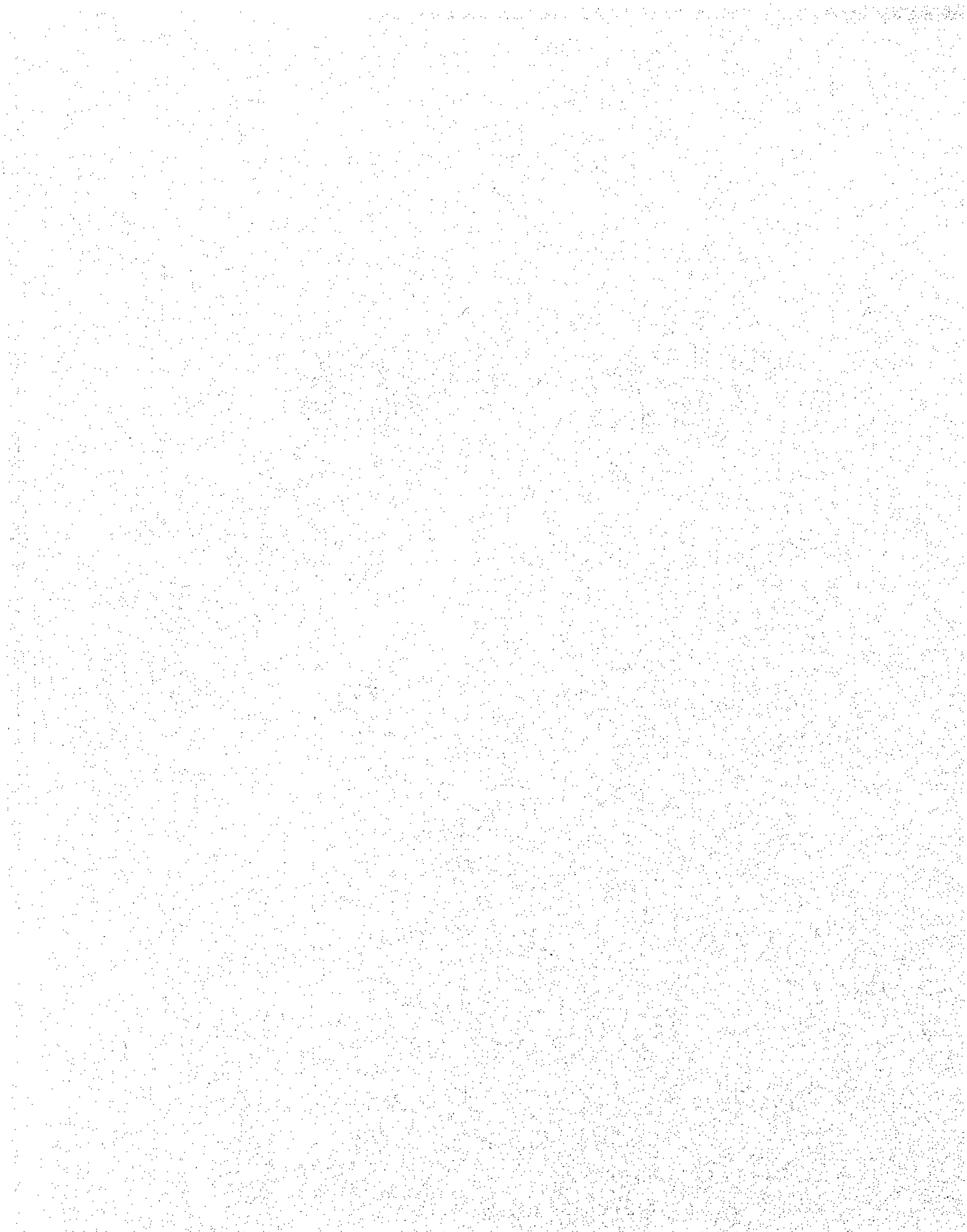
最後の合唱
마지막 합창

青年招へい事業

청년 초청 사업

日本語編・일본어편 ································· 3
韓国語編・한국어편 ·································31

青年招へい事業



はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、アセアンをはじめ、アジア、太平洋、アフリカ諸国などから、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に１カ月間招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

昭和59年度より平成６年度までの11年間で、日本を訪問したアジア・太平洋・アフリカ諸国の青年は11,921名に達しました。招へい国は当初アセアン６カ国でしたが、現在では太平洋諸国、ミャンマー、中国、韓国、南西アジア諸国、モンゴル、アフリカ諸国、およびカンボディア、ラオス、ヴィエトナムのインドシナ３国が加わり大きな広がりをもってまいりました。

そして、本事業開始以来12年目を迎えた平成７年度も、1,533名の青年の受け入れを無事終了することができました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の１カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねて厚くお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義な交流プログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成８年３月

国際協力事業団
研修事業部
部長　庵原　宏義

目　　次

1．韓国青年招へい事業

(1)事業の概要……9

(2)招へい実績……10

2．招へい青年の印象……12

3．合宿セミナー参加日本青年の声……16

4．ホストファミリーの思い出……19

〈実績資料〉

1．韓国青年招へい実績一覧……25

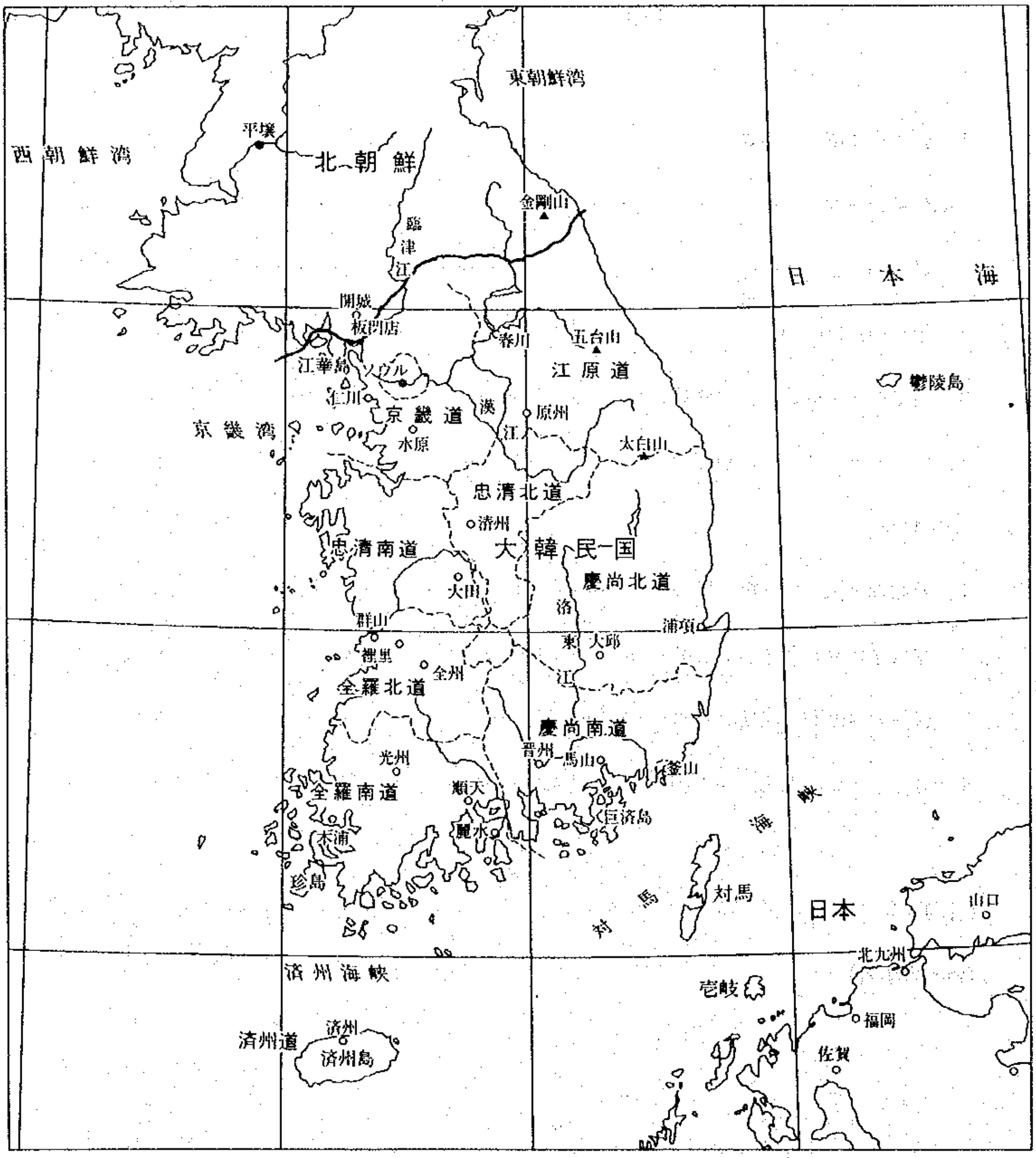
2．平成７年度青年招へい実績一覧……26

3．韓国窓口機関（現地プログラム実施機関）……28

4．青年招へい事業実施協力団体等連絡先……28

韓国語編……31

〈韓国青年名簿〉


東朝鮮湾
平壌
西朝鮮湾
北朝鮮
金剛山
臨
津
江
日本海
開城
板門店
春川
五台山
江原道
江華島
ソウル
鬱陵島
仁川
京畿道
漢
原州
京畿湾
水原
江
太白山
忠清北道
清州
忠清南道
大韓民国
大田
慶尚北道
洛
群山
浦項
東
大邱
裡里
全州
江
全羅北道
慶尚南道
晋州
馬山
光州
釜山
全羅南道
順天
巨済島
海
峡
木浦
麗水
珍島
対馬
馬
対
日本
山口
北九州
済州海峡
壱岐
福岡
済州
済州道
済州島
佐賀

1. 韓国青年招へい事業

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と韓国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う韓国の青年をわが国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

(a) 招へい人数

平成7年度は、100名の青年を同時期に受け入れる。

(b) 招へい対象者

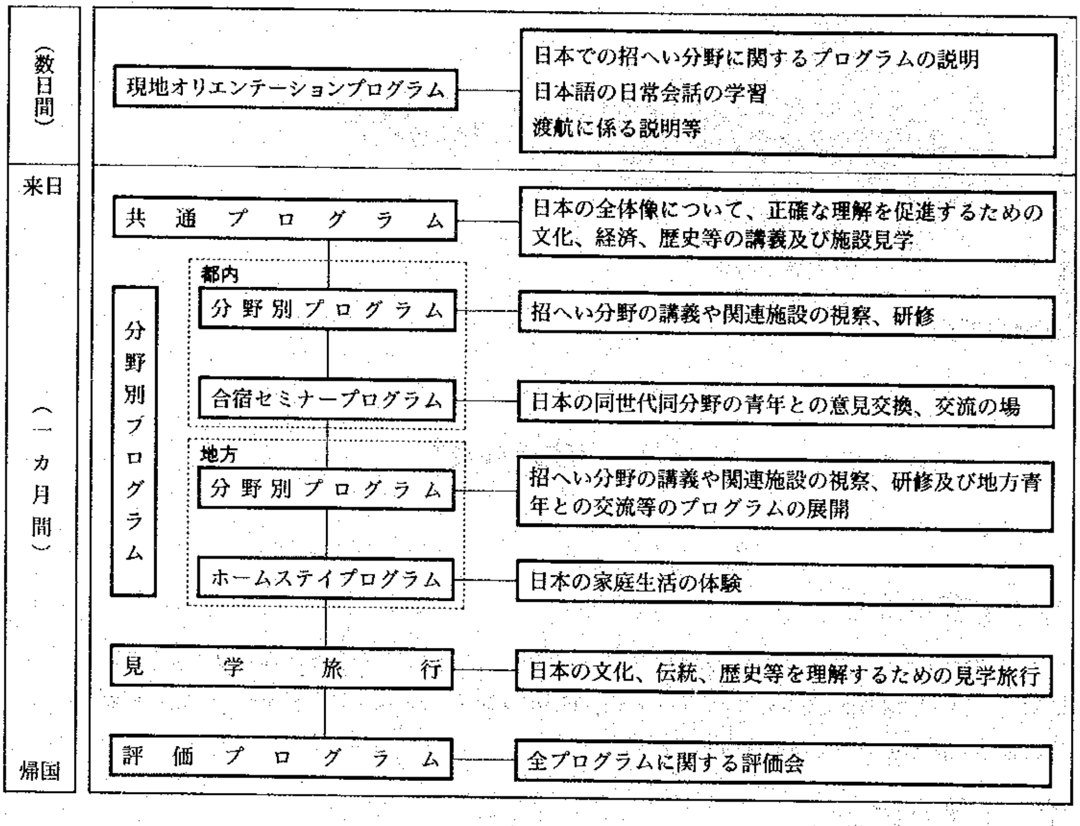
下記分野における指導的立場にある18～35歳の青年。

招へい対象者	人数
(i) 青年指導者・公務員	25名
(ii) 勤労青年（技術系）	25名
(iii) 教員（養護学校）	25名
(iv) 学生（理科系）	25名

(c) 招へい期間および時期

招へい期間は7月5日～8月3日までの1カ月とし、出発前、数日間の現地プログラムを実施する。

3) プログラム概要

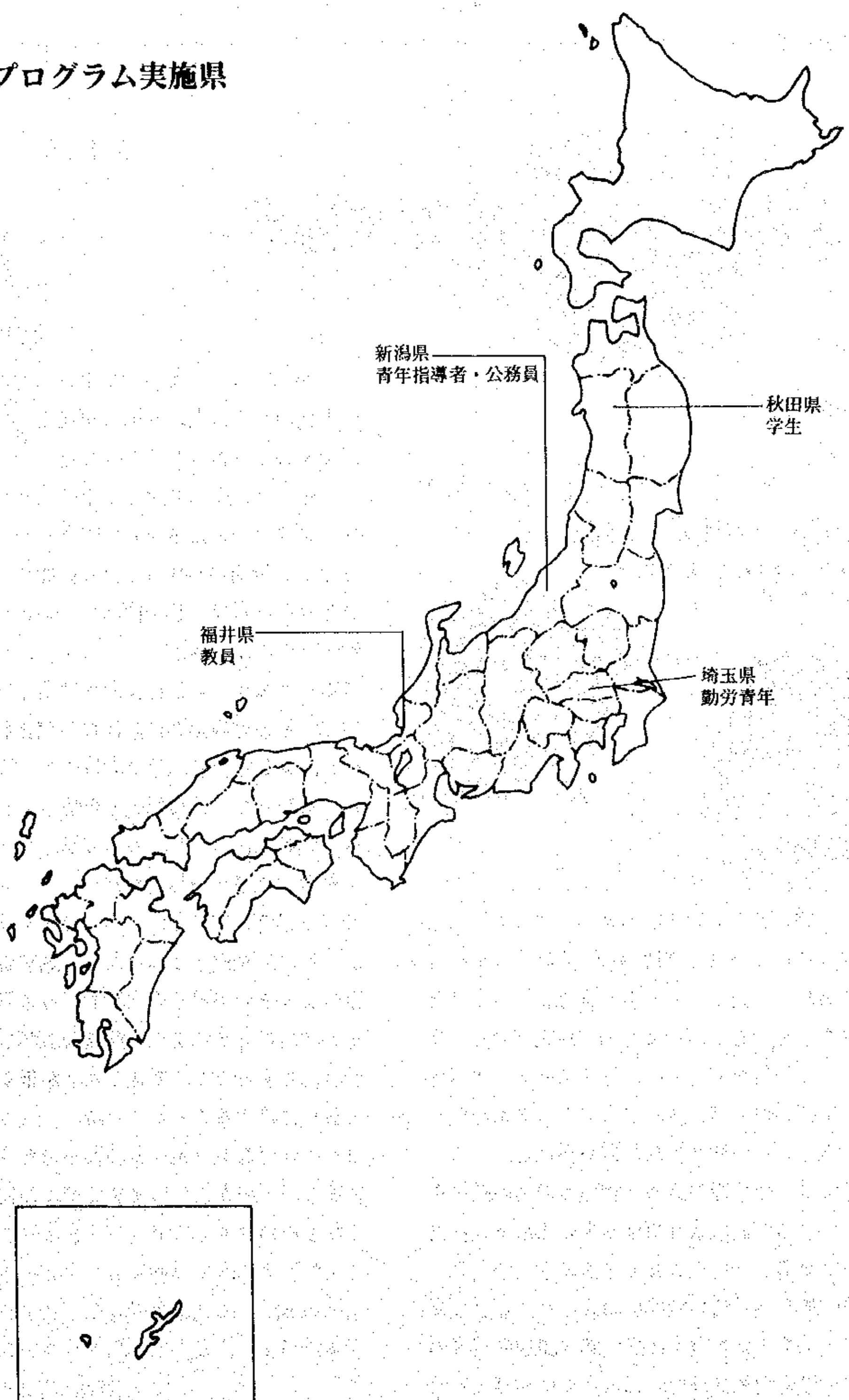


(2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施県
青年指導者・公務員	25	国際交流サービス協会	新潟
勤労青年(技術系)	23	勤労厚生協会	埼玉
教員(養護学校)	25	日本ユース・ホステル協会	福井
学生(理科系)	25	世界青少年交流協会	秋田

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施県



2.招へい青年の印象

青年招へい事業に参加して
—新しい始まりを期待して—

朴 ESTHER
(青年指導者・公務員グループ)

1カ月間の計画で青年招へい事業に参加する日本訪問が決定した時、期待半分、心配半分が錯綜した心情だった。新しい人々、文化に接することができるうれしさと裏腹に日本、日本人に対する漠然とした不信があったのだ。まあいい、すべてのことを払い捨てて、見たまま、あるままを感じてみようという気持ちで飛行機に乗った。

今、すべての日程が終わったあとの私の感想を整理してみると、日本もやはり人の住んでいる世界なんだなあ、ということである。

体験的日本語学習の時間に出会った60歳の会社員、ボランティアと言えば当然20～30歳の若者のはずだとの予測とは違い、疲れた体に鞭打って、最後まで、親切に案内をし、歳にもよらず、一生懸命努力している姿を見せてくれた。

合宿セミナーで出会った英子さんは、演劇の好きな明るい女の子で、一晩中おぼつかない言葉話を交わして人間的な関心が見え、別れる時に涙で私の心に深い余韻を残した。

そして、ホームステイで出会ったヒッポファリークラブの人たちからは際立ったリーダーがなくても時間が決まると自ら参加し、友達にな交わりながら集まりを続けていく自主的な姿をかがうことができた。

ホームステイと言えば、お世話になった家の学4年生の大輝くんは数言しか知らない韓国語私と話をしたがり、特に学校の校長先生に私を介したがった。校長先生の事情でそれができなったのだが、あまりにもがっかりしたその姿はた私の心を温かくしてくれた。

プログラムを通して、多くの人々と出会い、の一人一人が持っていた人情、誠実さが正に見ないというのが日本の本質であると思うようにり、今、私もこれまでの偏見と誤解を捨て、情感じ、愛することのできる人々が集まり住む日と新たに接することができた。

この間出会ったすべての人々にもう一度、感を捧げ、その人たちの見せてくれた親切を心にく残したい。

日本訪問を終えて

高　光律
(勤労青年グループ)

多くの韓国人にとって、日本は特別な意味を持つ。その意味は大きく分けて三つある。一つは過去の不幸な歴史によって生じた被害意識と敵対心であり、二つ目は日本の飛躍的な経済発展を学びとり、日本を追い抜こうとする克日精神である。そして三つ目は日本の経済力を羨むあまり、自尊心を捨て実利だけを乞う卑屈な精神である。私たちの日本観においてこれらのことが客観的視点の妨げとなっている。

私は今回の日本訪問を通じて、日本は韓国を何ら意識していないという事実を悟った。言い換えれば、日本は主体性に基づいた客観的認識で韓国に接しているということである。これが強者ゆえの論理であるならば、当然残念に思うと同時に悔しさに耐えられないのだが、このような日本の認識が今日の発展をもたらしたとしたら、これを誰がなじれるであろうか。

敵対心と憎悪感は判断力を鈍らせる要因になり、結果的には相手に勝つことはもとより相手を正確に把握することさえもできなくさせてしまう。

私は今回の訪問で、日本的な主体性が何であるかを知ろうとした。逆説的ではあるが、韓国が主体性と本来の姿をとり戻せば、日本の主体性を把握できることに気づいた。

韓国の諺に「わが家系は丞相の家系であった」「わが家も金の子牛を持っていた」というのがある。私はこの諺が、敗者の慰めにしかすぎないとはっきり分かった。

俗に歴史は勝者のものであり、名分は勝利がもたらしてくれるものだという。しかし、私は勝者あるいは勝利がいつまでも真実を買収することはできないという事実を、ここ日本において実感した。

最後に、日本を見せてくれたJICAへ深く感謝申し上げたい。

小さな出会い

元　省玉
(教員グループ)

私は、今まで「日本人」「日本文化」「日本語」というものに接する機会も関心もなかったが、今回のプログラムに参加して、初めて関心をもつようになった。1カ月という日程はやや負担でなくもなかったが、期待と不安感で日本の土を踏んだ第一印象は、交通渋滞まで韓国と似通っており、どこか見覚えがあるような感じさえした。

最初の1週間は、口さえきかなければ、そこがソウルなのか東京なのか見分けがつかない街を通りながら、外見が同じであるだけに、かえって両国間の文化の摩擦が起こるのだという西岡力先生の講義の一節を思い起こした。国の名誉がかかっている重大な出会いなのだという負担感から始まった合宿セミナーで、私は、日本の先生方を前にして、イメージ管理に気を使った。言葉一つ一つにも相手を窺うような感じだったのが、いくらも経たないうちに堰を切ったように言葉が溢れ出、「われわれは少し違っているほかは、すべて同じだ」

という結論を下しながら、一体感を覚え始めた。

その後、「スポーツ交流」「交流の夕べ」で、私たちはお互いに、同じ仕事に従事し、似たような葛藤があり、似たような夢を抱いて生きている青年であることを、共に握りしめた手を通して、見つめ合った目で、また大きな声で歌った歌や踊りを通して感じることができた。

最後に、後ろ髪を引かれる思いで別れを後にし、さらに福井での日程を終えて大阪に帰ってきた時、私たちの宿舎や見学先に訪ねてくださった日本の先生方と接しながら、この小さな出会いが、もしかすると大きな出会いにつながり、前の世代が得ることのできなかった結論を、私たちが解決できるのではないか、という感動がこみ上げてきた。

このような小さな出会いの炎は、ホームステイでも見られた。ホストファミリーのご主人と奥さんを見ているうちに、「憎たらしいほどそつがないのではないか」という先入観がくずれ、合宿セミナーで無造作に脱ぎ捨てられていた日本の先生方の靴や、薄汚れた裏通りが思い浮かび、なぜか不思議な温かみを感じた。国境も歳の差も忘れ、あちこちの社殿を訪ねながら、たくさんの話を交わした2人の先生たちと別れる際に、再び会う時は日本の先生方は韓国語で、私は日本語で話すことを約束し合った。

この1カ月間、私は、お互いに同じ面もあるし、違うところもあるので、お互いがありのままを認めなければならないということが分かった。そして この小さな炎は、きっと大きな炎になるに違いない、という確信を得た。

日本で流した涙
―秋田での白いハンカチと広島平和記念公園―

金 起徧
(学生グループ

1995年の夏、その熱気の如く熱く過ぎていった1カ月の日本滞在中、最も思い出に残ることといったら、私は迷わず7月27日の出来事を挙げるだろう。

7月27日の朝、私たち25人の一行は秋田での充実したプログラムを終え、広島に行くために空港に向かっていた。道のりの半分ほどを過ぎた頃だったろうか。私は目頭が熱くなるのを感じた。道端で私たちのバスが来るのを待っていた、あるホストファミリーのお母さんが真っ白いハンカチを振っているではないか。バスが角を曲がって見えなくなるまで振っていたその白いハンカチを見ながら、私は人間にとって最も大きな感動を与えるものは今もなお人間であることを改めて思った。

しかし、次に起こったことをどう説明したらいいのだろうか。

秋田での感動が消える間もなく、広島の平和記念公園を訪れたところで、私たちは秋田で流したのとは全く異なる涙を流していた。広々とした平和記念公園の隅のほうにみすぼらしく建つ韓国人原爆犠牲者慰霊碑の前で怒りを感じたのは、当時弱小国であるがゆえに被害にあった状況と少しも変わらない現在の境遇に対するものだったのかもしれない。

平和の鐘、平和のともしび、平和の橋……私の怒りは、平和というものがたやすく与えられるも

のではなく、軽く取り扱ってはいけないものだと私が信じてきたことによるほうが大きかったかもしれない。

おとなしさと自由奔放さを持ち合わせ、全体主義と個人主義が微妙に調和する日本に対して、この1カ月をもってこうであると定義するのは難しい。しかし、ここにも温かい人情が存在することと、北緯40度の小都市、秋田で感じた出会いと別れの感動は、私が1995年の夏の日本を覚えている限り、永遠に続くだろう。

3.合宿セミナー参加日本青年の声

最大の収穫

新井　浩
（公務員）

国際化の時代といわれ、他国の人と交流を持つことが容易になった現代においても、そのためには、自ら積極的に行動を起こさなければならないのは当然のことでしょう。今まで外国語の習得もせず、外国を訪れたこともなかった私は、そのような行動を起こそうとする意思の乏しい人間でした。そんな私が、韓国の青年指導者・公務員グループとの合宿セミナーに今回参加したのも、積極的な行動を起こそうとしたものではなく、ただ何となく興味を惹かれたためということにすぎませんでした。

3日間、韓国の方々と起居を共にし、バレーボールやボウリングを楽しんで共に汗を流したり、酒を酌み交わしたり、お互いの国の歌を歌ったり踊りを踊ったりする一方で、ある時はディスカッションを行い（私のいた班では日本と韓国における教育問題をテーマとした議論が印象に残ります）、またお互いのことについて語り合って、私が非常に強く感じたのは、「日本語が当たり前のようには通じない環境を、外国へ出かけることなく体験できた」といったことでした。そして、そんな環境のなかで「にほんご21」を見ながら韓国語を使い、紙に単語を書いたり大げさなジェスチャーを交えながらつたない英語を用いて、私は韓国の方々とコミュニケーションを図りました。その過程で、失敗や恥も恐れない積極性が、自分にも少しはあるのだな、ということに気づき、またそんな自分に驚きもしたのです。

多くの友人を得ることができたこと等、このセミナーに参加したことによる収穫は数多くありますが、自分のなかの「外国の方と交流を持とうとする積極性」を見つけることができたことは、最大の収穫でした。そんな機会を与えてくださった皆様に深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

知っているようで知らない世界

綾部　昭彦
（会社員）

仕事上、さまざまな国の方と接しています。主に技術者ですが、イギリス、アイルランド、中国、マレイシア、パキスタン等計9カ国に及びます。しかし、あくまでも仕事上のつき合いであるため、フランクな交流というにはほど遠いのが現状でしょう。

今回、勤労厚生協会から日韓勤労青年の合宿セミナーの案内があり、仕事を離れた交流ができることを期待して参加を希望しました。セミナーに参加する前に念入りな事前説明を受けました。セミナーの主旨や交流の目的、そして相手国を理解

するうえで大切な知識を私たちに指導していただき、とても役に立ちました。

7月14日、いよいよ2泊3日のセミナーが始まりました。理事長のユーモア溢れるご挨拶に始まり、続いて行われたレクリエーション（バレーボール）では、言葉の障壁も感じられないほど十分打ち解けることができました。これは、その後のグループ討議をスムーズに行ううえで非常に役立ったと思います。

グループ討議では、結婚問題、就労問題等常日頃私たちが直面している問題と共通の話題が話し合われ、お国柄の違いはあっても、基本的には同じであると感じました。特に韓国は地理的にも近く、歴史的にも深く交流してきた国であり、社会のシステムや習慣等に多くの共通点が見られるのは至極当然なことでしょう。半面、近い割に交流が少なく、このような機会がないと表面的な知識しか得られないのが現実ではないでしょうか。

合宿セミナーに参加して、「知っているようで知らない世界がある」ことを体験的に理解することができたことは、今後の私たちの国際交流にたいへん役立つものと確信しています。

心と心

池田　京子
（教員）

2泊3日の韓国教員グループとの交流を行うにあたって、事前研修がありました。その時には多くの参加者は、言葉が通じないことにとても不安を感じ、どのようにかかわっていけばよいものかと悩んでいました。しかし、そんな心配もいらぬほど、当日はとても良い雰囲気のなかで交流を進めることができました。

スポーツ交流では、二人三脚、大縄とび、綱引きと、肩を組んだり、共に力を合わせたりしながら、言葉はなくとも身体を通じ、心を通じてコミュニケーションすることができました。そういう意味では、このスポーツ交流はとても有意義なものと言えるでしょう。

また、分科会においては、さまざまな情報交換をすることができ、互いに理解を深めることができました。障害を持つ子供に対する思いや前向きに取り組もうとする姿勢は両国とも変わりないのですが、韓国の方は、専門的な勉強をよくされているし、自信とプライドを持ってされているように思いました。

懇親会では、扇の舞、手話コーラス、舞踊、創作ダンスと韓国の文化を大切にし、自分たちの専

門を大切にしただし物を披露していただきました。それに比べ、私たちのだし物ときたら日本の文化とはほど遠いものばかり。それなりに楽しめたものの、日本人は自分たちの国の文化を大切にせず、いかに外国のものばかりを追っているかがよく分かりました。

以上のようにさまざまな交流を通して互いに理解を深め、心を通じ合わせることができ、とても有意義な時間でした。これも、食・住を共にしながら、心と心で触れ合い、分かり合おうとしたことがよかったのだと思います。

よい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

韓国が〝無関心〟から〝好きな国〟に

井澤　憲子
(学生)

〝無関心〟というものは、むしろ〝嫌悪感〟よりもやっかいなものかもしれません。〝無関心〟というのは、その対象の存在に何ら意義を見いだしていないことだと思うのです。そのうえ、この感情はチャンスを逸するとなかなか打ち壊せないものです。以前の私は、韓国に対し、まさに〝無関心〟でした。でも、ほんの数日で、私の意識を一変させてしまうほど、この合宿セミナーはすごいものでした。まるで美容広告の使用前・使用後のように、自分でもその変化に驚いています。今「韓国」と聞くと、何だかあったかい、なつかしい気持ちになります。単に興味がわいたというより、心底韓国が好きになってしまいました。そこで思うのは、国際理解といっても、所詮人と人との生身の交流に勝るものはないということです。私は韓国語がまったく話せませんでした。この点については、もし少しでも韓国語で話せたら、彼らに喜んでもらえたのに……と、残念でなりません。しかし、3日間同じ空間で同じ時を過ごし、歌い、踊り、話し、遊ぶことで、気持ちは通じるのだと実感しました。つたない英語の一言でも千金の重みをもつのだと思いました。私は、今回経験したこと、感じたこと、とりわけ韓国人が大好きになったことを自分の友人に話していきたいと思います。また、今回認識した、自分自身のいろんな面での力不足を埋めるために、彼らにまた会える日を楽しみにしながら、一人の人間として成長していきたいと思っています。

最後に、私をこのセミナーに引き入れてくださった方々、また一人一人味のある、日本人学生メンバーの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

4.ホストファミリーの思い出

「反日」から「善意の競争」への思いへ

北村佳代子
（新潟県）

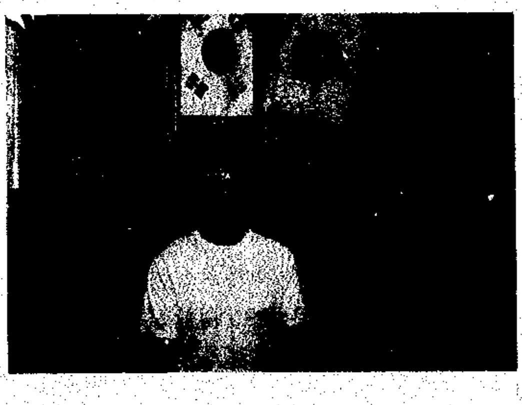
このたびのホームステイでは韓国人青年、車永福さんをお招きしました。ここ3年間、わが家では、マレイシア、ネパール、ラオスなど合計7カ国の方々のホームステイを受け入れ、私自身も同時期12カ国を旅し、少しでも国際理解を進めてきたつもりです。

日本の隣国である韓国の方をお迎えすることは初めてでしたが、新潟空港に大韓航空が乗り入れていることや、友人の日本人女性が韓国の方と結婚し、現在、韓国に在住していることもあり、いつかは必ず行ってみたいと思っていましたので、たいへん楽しみでした。その彼女からも韓国に関する話は聞いており、常々、韓国と日本の過去の歴史やマスコミ等の報道する事実にたいへん心を痛めており、知らず知らず心の中に暗い陰を落としていたことは事実でした。この心のわだかまりを少しでも解消できれば……と心の片隅では思っていました。

しかし、お互い意思疎通の手段である言語（英語など）を持っておらず、直接会話ができませんでした。ところが、幸いにして、通訳として韓国語が話せる友人の中国人を迎え、彼を一緒に交えいろいろな話をしました。

たとえば、大和朝廷頃の日本の権力を保持していた者のなかには、朝鮮半島から渡ってきた人々もかなりいたと考えられます。その証拠に日本独自の古墳と考えられていた前方後円墳は朝鮮半島にもあり、そのほうが古かったなどという会話から始まり、戦争がもたらした韓国人の方々の多大なる苦痛、教科書検定による「侵略」「進出」の本当の意味、日本の朝鮮人学校について、そして現在、韓国人の方々の日本に対する思いや感情などの話を、中国人の友人を介し、双方の考えが通じ合えたと実感し、生の韓国人の方の意見を聞くことができ、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。

いちばんうれしかったことは、現在、韓国人、特に40代以下の方々の多くが今後日本人とどのようにつき合っていくかという問題に、「単なる〝反日〟だけの感情ではなく、〝善意の競争相手〟としてお互い頑張っていくべきだ」と、漢字による筆談ではっきりとおっしゃったことでした。正直、



ホッとした気持ちでいっぱいでした。こういう本音で話ができるという醍醐味が、ホームステイの経験から実感できる素晴らしいことだと思っています。

私たちの第一歩

畑中　容子
（福井県）

数年前、デンマークでホームステイをした。それ以来いつかお返しをと思っていたが、ようやくその機会に恵まれたのである。結婚して半年、夫と2人暮らしのため寂しい思いをさせるのではという不安もあったが、幸い友人宅も受け入れるということで、決心することができた。

友人宅も夫婦2人のため、最初の夜と翌日は2家族合同で行動する計画を立てた。初日の夕食は食の好みも分からないまま手巻きずしをメインに。しかし、2人とも生魚は食べられないようで大失敗。妙に会話だけがはずむ事態となった。1人は日本語が、1人は英語が少し理解できるということで、ハングル、英語、日本語がとびかう国際色豊かな!?宴会であった。何を話そうかという不安もどこへやら、彼女たちの笑顔が私たちをリラックスさせてくれた。翌日は、小雨にもかかわらずバーベキューを決行。スーパーでの彼女たちの買い物にちょっと驚かされながらも（カゴいっぱいお菓子だったので）、バーベキューは大成功。アルコールが入った勢いでそのままカラオケボックスへ。音楽は世界共通である。日本の歌を教えてあげ、韓国の歌を教えてもらい、あげくの果てにはレッツダンシング！　最高に楽しいひとときであった。〝オッパ〟〝オンニ〟と韓国では親しみをこめ、お兄さん、お姉さんと呼ぶそうだ。彼女たちのこともようやく名前で呼び合えるようになった。

あっという間の2日半。私たちにとってはすべてが初体験で不慣れなことも多々あったと思うが精いっぱい気遣ってくれた彼女たちに感謝したい韓国と日本の友好の歴史はまだ浅いが、自分たちができることから友情の輪を広げていきたい。次回は韓国で会うことを約束して、私たちの友好の歴史が始まった。

金さん、楽しかったです。ありがとう

瀧　維久子
（秋田県）

私どもの初めてのホームステイ受け入れにゲストとしておいでになった金起徳さんには、対面式の時からすぐ親しい気持ちを持つことができ、今もそれを不思議に思っております。

金さんは礼儀正しく、思慮深く、それでいて堅苦しくない、人柄の優れた方でした。初対面で直感的にそれが感じとれたのかもしれません。

金さんは日本語が上手で会話には困りませんでした。でも言い方によっては分からないところもあり、二女が使った「嫌いじゃない」という言い方が、好きなのか嫌いなのかと尋ねられ、そんなことを家族とにぎやかに話し合ったりしました。二女は恥ずかしがり屋で消極的なのですが、「あっちゃん」、「あっちゃん」とかわいがっていただき、私どもはとてもうれしく思いました。

金さんはまた、スポーツも大好きとのことでした。主人とゴルフの練習場に行き、手にまめをつくってしまいましたので、「マメ」とお教えしたところ、「マメ」がおみやげになったなどと、私どもの心配に、かえって気遣いをしてくださるのでした。

最後の夜、9時過ぎに別のホームステイの方から電話が来ました。何かしらと心配したのですが、お話を聞いて笑ってしまいました。その方はあまり日本語ができないそうですが、会話のなかによく出てくる〝やっぱり〟がどうしても分からないとのことだったそうです。〝やっぱり〟は、やっぱり外国の方には難しいのね、などと笑い合いました。

お帰りになる時、金さんからお礼のお手紙を頂戴いたしましたが、お礼を申し上げるのはむしろ私どものような気がいたします。来年からは社会人の由、ご活躍を心から願いますとともに、またお会いしたいと思っております。

実績資料

1. 韓国青年招へい実績一覧

●平成3年度（98名）

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者	19	青少年育成国民会議	三　重	関　西	三重県青少年育成県民会議
教員	20	日本ユネスコ協会連盟	山　口	中　国	山口県ユネスコ協会連盟
勤労青年	28	勤労厚生協会	沖　縄	沖　縄	沖縄県国際交流財団
学生	31	世界青少年交流協会	岡　山	中　国	岡山世界青年友の会

●平成4年度（99名）

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
学生	26	世界青少年交流協会	静　岡	関　東	静岡県国際交流協会
教員	25	日本国際協力センター	秋　田	東　北	秋田県国際交流協会
勤労青年	25	勤労厚生協会	愛　媛	四　国	愛媛県青年海外協力協会
青年指導者	23	青少年育成国民会議	北海道	北海道	北海道YMCA

●平成5年度（96名）

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
学生	25	世界青少年交流協会	石　川	北　陸	石川県世界青年友の会
教員	24	日本国際協力センター	岩　手	東　北	岩手県国際交流協会
勤労青年	23	勤労厚生協会	高　知	四　国	日本青年会議所高知ブロック協議会
青年指導者	24	日本ユース・ホステル協会	新　潟	関　東	新潟県ユース・ホステル協会

●平成6年度（100名）

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユース・ホステル協会	沖　縄	沖　縄	沖縄県ユース・ホステル協会
教員	25	青年海外協力協会	北海道	北海道	北海道青年海外協力隊OB会道東支部
勤労青年	25	勤労厚生協会	埼　玉	関　東	上尾市国際交流推進委員会
学生	25	世界青少年交流協会	新　潟	関　東	新潟県世界青年友の会

●平成7年度（98名）

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体
青年指導者・公務員	25	国際交流サービス協会	新　潟	関　東	(財)新潟県国際交流協会
勤労青年	23	勤労厚生協会	埼　玉	関　東	上尾市国際交流推進委員会
教員	25	日本ユース・ホステル協会	福　井	北　陸	(財)福井県国際交流協会
学生	25	世界青少年交流協会	秋　田	東　北	秋田県世界青年友の会

2. 平成7年度青年招へい実績一覧

受入時期 陣・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
5月10日～ 6月8日 1陣 94人	インドネシア	教育	22	青年海外協力協会	山形	山形県青年海外協力協会
	インドネシア	社会開発	25	勤労厚生協会	徳島	徳島県青年連合会
	フィリピン	教育	22	青少年育成国民会議	山梨	(社)青少年育成山梨県民会議
	フィリピン	社会開発	25	日本経済青年協議会	広島	(財)広島市国際交流協会
5月24日～ 6月22日 2陣 94人	シンガポール	教育	22	国際交流サービス協会	茨城	茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ
	シンガポール	社会開発	25	日本友愛青年協会	大阪	友愛青年連盟大阪支部連合会
	タイ	教育	22	世界青少年交流協会	静岡	沼津国際交流協会
	タイ	社会開発	25	日本ユース・ホステル協会	京都	(財)京都ユース・ホステル協会
6月7日～ 7月6日 3陣 94人	マレイシア	経済経営	25	世界青少年交流協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会
	マレイシア	中小企業	25	青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
	フィリピン	経済A	20	ユースワーカー能力開発協会	広島	庄原市国際交流実行委員会
	フィリピン	経済B	24	日本国際協力センター	石川	小松市国際交流協会
6月21日～ 7月20日 4陣 110人	インドネシア	経済A	20	国際交流サービス協会	島根	島根県国際交流青友会
	インドネシア	経済B	24	勤労厚生協会	群馬	アセアン青年招へい事業館林市実行委員会
	シンガポール	経済A1	20	日本国際生活体験協会	宮城	(財)宮城県国際交流協会
	シンガポール	経済A2	24	日本ユース・ホステル協会	福岡	福岡県ユース・ホステル協会
	シンガポール	経済B	22	日本経済青年協議会	愛知	(財)豊橋市国際交流協会
6月28日～ 7月27日 5陣 93人	バングラデシュ	公務員 (社会福祉関係)	20	青年海外協力協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
	ブータン、モルディヴ	教員	10	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	(財)沖縄県国際交流財団
	インド	青年指導者 (社会開発)	23	日本国際協力センター	愛知	(財)愛知県国際交流協会
	ネパール	教員	10	日本青年団協議会	徳島	徳島市国際交流協会
	パキスタン	公務員 (農業関係)	20	世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
	スリ・ランカ	教員	10	青少年育成国民会議	北海道	滝川市国際交流協会
7月5日～ 8月3日 6陣 98人	韓国	青年指導者・ 公務員	25	国際交流サービス協会	新潟	(財)新潟県国際交流協会
	韓国	勤労青年 (技術系)	23	勤労厚生協会	埼玉	上尾市国際交流推進委員会
	韓国	教員 (養護学校)	25	日本ユース・ホステル協会	福井	(財)福井県国際交流協会
	韓国	学生 (理科系)	25	世界青少年交流協会	秋田	秋田世界青年友の会
8月23日～ 9月21日 7陣 94人	フィリピン	農業	25	全国農村青少年教育振興会	大分	(財)大分県海外協会
	タイ	農業	25	日本青年団協議会	青森	青森県青年海外協力協会
	タイ	経済A	20	日本経済青年協議会	秋田	(財)秋田県国際交流協会
	タイ	経済B	24	勤労厚生協会	愛知	ジャパンヤングサークル東海支部
8月30日～ 9月28日 8陣 78人	太平洋混成	公務員	22	青年海外協力協会	岐阜	飛騨高山国際協会
	太平洋混成	教員	14	日本ユース・ホステル協会	石川	石川県ユース・ホステル協会
	パプア・ニューギニア	公務員	10	世界青少年交流協会	富山	富山県世界青年友の会
	パプア・ニューギニア	教員	20	日本国際協力センター	滋賀	滋賀県青年団体連合会
	フィジー	公務員	12	青少年育成国民会議	和歌山	(社)和歌山県青少年育成協会
9月13日～ 10月12日 9陣 105人	インドネシア	農業	25	全国農村青少年教育振興会	鹿児島	(財)鹿児島県国際交流協会
	マレイシア	農業開発	16	青年海外協力協会	栃木	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
	マレイシア	教育	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
	マレイシア	科学技術	25	豊川市国際交流協会	愛知	(財)豊川市国際交流協会
	ブルネイ	社会開発	14	日本国際生活体験協会	岡山	日本国際生活体験協会岡山地区委員会

受入時期 陣・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
9月27日～ 10月26日 10陣 113人	ASEAN混成	環境保全	30	日本経済青年協議会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	ASEAN混成	社会福祉	30	世界青少年交流協会	富山	(財)とやま国際センター
	ASEAN混成	保健医療	30	国際看護交流協会	山梨	(財)国際看護交流協会
	ASEAN混成	報道	23	日本国際協力センター	徳島	徳島 新聞・放送実行委員会
10月11日～ 11月9日 11陣 97人	アフリカ					
	英語圏	女性教員１	22	大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	仏語圏	〃２	25	大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	英語圏	経済開発公務員１	24	国際交流サービス協会	山口	山口県青年団体連絡協議会
	仏語圏	〃２	12	青年海外協力協会	岡山	津山とアジアを結ぶ会
	仏語圏	〃３	14	世界青少年交流協会	岡山	岡山県世界青年友の会
10月18日～ 11月16日 12陣 98人	ヴィエトナム	公務員	25	日本国際協力センター	北海道	とまこまい国際交流センター
	ヴィエトナム	経済	25	勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
	ヴィエトナム	農業	24	全国農村青少年教育振興会	徳島	徳島県国際農業協議会
	ヴィエトナム	教育	24	ユースワーカー能力開発協会	石川	(財)石川県国際交流協会
10月25日～ 11月23日 13陣 88人	ASEAN混成	教育１	18	日本国際生活体験協会	北海道	(財)札幌国際プラザ
	ASEAN混成	教育２	18	日本友愛青年協会	熊本	熊本県青年海外協力協会
	ASEAN混成	経済１	17	日本国際協力センター	千葉	(財)千葉県国際交流協会
	ASEAN混成	経済２	17	日本ユース・ホステル協会	静岡	(財)静岡県国際交流協会
	ASEAN混成	経済３	18	青少年育成国民会議	福岡	(社)九州・山口経済連合会
11月8日～ 12月7日 14陣 98人	中国	青年指導者	25	日本青年団協議会	岡山	(財)岡山県青年館
	中国	勤労青年	25	日本経済青年協議会	三重	三重県連合青年団
	中国	公務員	23	国際交流サービス協会	長崎	(財)長崎県国際交流協会
	中国	教員	25	日本ユネスコ協会連盟	福島	福島ユネスコ協会
11月15日～ 12月14日 15陣 99人	中国	産業基盤整備	25	日本ユース・ホステル協会	鳥取	とっとり青友会
	中国	経済開発	24	勤労厚生協会	愛媛	(財)愛媛県国際交流協会
	中国	地域振興	25	世界青少年交流協会	香川	香川県海外派遣友の会
	中国	人材育成	25	青少年育成国民会議	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
1月17日～ 2月15日 16陣 80人	カンボディア	教育	30	青少年育成国民会議	大阪	大阪市青少年国際交流協議会
	ラオス	教育	20	国際交流サービス協会	高知	(財)高知県国際交流協会
	ミャンマー	教育	20	世界青少年交流協会	兵庫	(財)兵庫県青少年本部
	モンゴル	公務員	10	青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会道東支部
合計	71グループ 1,533人	ASEAN６カ国（792）、太平洋13カ国・地域（78）、ミャンマー（20）、中国（197）、韓国（98）、南西アジア諸国７カ国（93）、モンゴル（10）、アフリカ諸国41カ国１国際機関（97）、カンボディア（30）、ラオス（20）、ヴィエトナム（98）計74カ国・地域、１国際機関				

3. 韓国窓口機関(現地プログラム実施機関)

大韓民国文化体育部青少年政策室青少年交流課

4. 青年招へい事業実施協力団体等連絡先

㈳青少年育成国民会議 (National Assembly for Youth Development-NAYD-)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター
TEL 03(3460)4151 FAX 03(3460)1603

㈶世界青少年交流協会 (The World Youth Visit Exchange Association-WYVEA-)
〒111 台東区浅草橋1-7-2 岩崎ビル
TEL 03(5820)0791 FAX 03(5820)0796

㈳日本国際生活体験協会 (Japanese Association of the Experiment in International Living-EIL-)
〒102 千代田区麹町4-5 橘ビル6階
TEL 03(3261)3451 FAX 03(3261)9148

㈳全国農村青少年教育振興会 (The Rural Youth Education Development Association)
〒162 新宿区新小川町4-19 末ビル3階
TEL 03(3235)7461 FAX 03(3235)7462

㈳日本経済青年協議会 (Junior Executive Council of Japan-JEC-)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター
TEL 03(3469)2381 FAX 03(3481)5726

㈳勤労厚生協会 (The Working Youth Welfare Association)
〒151 渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター
TEL 03(3469)6421 FAX 03(3469)6422

㈶ユースワーカー能力開発協会 (Development Association for Youth-DAY-)
〒105 港区新橋1-1-1 日比谷ビル6階
TEL 03(3508)2048 FAX 03(3503)2535

㈳国際交流サービス協会 (International Hospitality and Conference Service Association-IHCSA-)
〒100 千代田区霞が関2-2-1 外務省第一別館
TEL 03(3580)1630 FAX 03(3580)7451

(社)青年海外協力協会 (Japan Overseas Cooperative Association-JOCA-)
〒106 港区南麻布5-10-24 第2佐野ビル7階
TEL 03(3446)3651 FAX 03(3446)3652

日本青年団協議会 (Japan Seinendan Council)
〒160 新宿区霞ヶ丘町15 日本青年館2階
TEL 03(3475)2491 FAX 03(3475)0668

(社)日本ユネスコ協会連盟 (National Federation of UNESCO Associations in Japan)
〒150 渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL 03(5424)1121 FAX 03(5424)1126

(財)日本ユース・ホステル協会 (Japan Youth Hostels, Inc.)
〒101 千代田区三崎町2-20-7 水道橋西口会館2階
TEL 03(3288)1417 FAX 03(3288)1248

(財)日本友愛青年協会 (Yuai Youth Association)
〒112 文京区小石川4-21-2 ハイツ小石川201号
TEL 03(5684)3187〜8 TEL 03(5684)3186

(財)日本国際協力センター (Japan International Cooperation Center-JICE-)
〒163-04 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル内 私書箱300号 (9階)
TEL 03(5322)2561 FAX 03(5322)2570

早稲田大学国際交流センター (Waseda University International Center)
〒169-50 新宿区戸塚町1-104
TEL 03(3203)7747 FAX 03(3202)8583

(財)日本武道館 (Nippon Budokan)
〒102 千代田区北の丸公園2-3
TEL 03(3216)5137 FAX 03(3216)5117